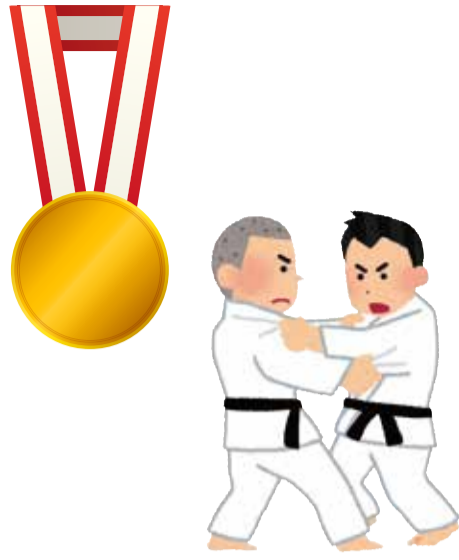


富士小地区

コミュニティ委員会

富士小地区コミュニティ委員会ではオリンピックといえ、何と言ってもこの方抜きでは語れないでしょう。その方は、1972年ミュンヘンオリンピック柔道中量級金メダリスト関根忍さんです。関根さんは当地区にお住まいでしたが、2018年の暮れに75歳で他界されました。来る東京オリンピックの話でもお伺いできればと思いましたが、残念でなりません。



出身は茨城県大洗町、中央大学卒業、警視庁柔道指導室勤務、28歳でミュンヘンオリンピックの金メダルを獲得しました。また、この年の日本選手権では中量級の選手でありながら、無差別の大会に出場し見事優勝し、柔道界に衝撃がはりました。

30歳で結婚し当地に新居を構えました。娘さん二人はともに富士小学校出身で、奥様も富士小出身でPTA会長から、当委員会の運営委員も務めています。関根さんはその後警視庁の柔道指導室、全日本柔道強化委員、アトランタオリンピック審判員などを歴任し、大洗観光大使も務められました。

そして、7年ほど前から東京都柔道連盟会長となり現役のままお亡くなりになりました。その人となりは、さすがに頂点を極めた人だけあって筋の通った方で、奥様曰く、公私をはっきりと区別してご家庭では柔道の話は一切せず、柔道着の帯一本すら持ち帰らなかったそうです。今となっては、存命中一度も見たことなかった夫、父、祖父としての関根忍の柔道着姿を目に焼き付けておけばよかったと家族一同悔やんでいます。

るそうです…。

全日本柔道連盟の山下泰裕会長も追悼のコメントを発表しています。その中に、子供の頃にミュンヘンオリンピックをTV観戦したこと、選手になってから全日本のコーチとして指導を受けたことを挙げています。関根さんのオリンピックでの活躍が、後の金メダリストの競技をやるきっかけになったのではないのでしょうか。



私たちの委員会のスポーツサークルの中にも、ミュンヘンオリンピックで金メダルを取った男子バレーボールの大古選手、横田選手、森田選手、猫田選手に憧れてバレーボールを始めたというママさんもいます。そう言えば、試合のたびに黄色い声援が凄かった記憶があります。

少年野球チームでは、久々に野球が正式競技になったことから、今から始まるのが楽しみのもので、度々話題に上るそうです。

他にもバスケットボール、テニス、空手、バドミントンのサークルがあります。東京オリンピックでこれらの種目に限っても、日本人選手がどれほど活躍し、メダルをいくつ取れるか楽しみです。私はこれら6競技だけで、8個の金メダル獲得を予想していますが、さぞどうなることでしょうか？

運営委員長 久代 喜志治

浅草橋地区

コミュニティ委員会

浅草橋地区コミュニティ委員会は、「育英コミュニティ」と「柳北コミュニティ」が合併し発足いたしました。

台東育英小学校の校庭、体育館、会議室や柳北スポーツプラザ会議室を利用してスポーツ系や文化系のサークルが楽しく活動しております。

今回は英卓クラブ（卓球）と柳北エラーズ（子供野球）の紹介をいたします。

●英卓クラブ

卓球の同好会である英卓クラブは昭和52年に発足し、毎週土曜日の夜間2時間の練習で汗を流しています。卓球も東京2020大会では、メダルの期待がかかる種目となりましたが、東京1964大会では卓球は種目はありませんでした。そのため2年に1度の世界選手権がビッグタイトルでした。当時はそれまで卓球大国であった日本が中国に取って代わられる時代でもありましたが、それでも正式種目として出場できていけばいくつかのメダルは取れていたかもと非常に残念に思ったものでした。その後、中国には大きく水をあけられましたが、国際卓球連盟が用具の制限を行い、これまで曖昧だった細かい所もルール化したことで長く続くラリーこそ卓球の醍醐味として見て楽しいスポーツに改良することに成功しました。日本でも福原愛選手を筆頭に幼少期からの英才教育が功を奏し、有望なジュニア達が台頭する近年は、海外の大会で中国のランキング上位の選手を破るニュースが飛び込んでくる様になりました。まだまだ中国に差はつけられていないと思いますが、卓球にとっては初めての自国開催での初の金メダル等、大変期待しています。卓球を愛好する者にとっても大きな励みと頑張れる勇気を授けられる様、応援していきたいと思っています。

菅原 きよ子

●柳北エラーズ

柳北エラーズは、東京1964大会が開催された年に結成され、令和元年で55周年を迎える歴史と伝統ある野球チームです。夏の全国高等学校野球選手権大会も昨年第100回を迎えましたが、約100年もの長いその歴史に負けず劣らず柳北エラーズは50年以上続いてきたことは、凄いことだと思います。

大人の野球はもちろんのこと、地域のごも野球の指導にも力を入れ、1学期の毎日曜日は台東育英小学校の校庭で、夏休みはラジオ体操終了後の7時から8時半まで月曜から金曜の毎朝、蔵前工業高等学校のグラウンドをお借りして大会に向けて子ども達と共に汗を流します。今年も第52回夏の子ども野球大会が36度の猛暑の中、8月17日に台東リバーサイドスポーツセンター野球場にて4チーム総当たりで開催されました。熱中症などを気にかけて、無事最後まで試合をすることができ、子ども達の元気なプレーや声援の中、今までの練習の成果を出し切った素晴らしい一日となりました。

継続は力なり。野球人気の低迷、他のスポーツの台頭など逆風が吹く今日この頃ですが、区内の他校の小学校にも積極的に声を掛け、地域の範囲を拡げて子ども達のために続けていきたいと思っています。

小川

